The image shows the exterior of a modern, multi-story library building with a light-colored facade and large windows. The building is situated on a slight incline with a concrete retaining wall and a paved road in the foreground. The sky is overcast. The text is overlaid in white on the building's facade.

図書館本館における 施設面での課題

令和元年度第2回柏市立図書館協議会

柏市立図書館本館の概要

20万人の教養の場に

- 昭和51年3月2日開館(43年経過)
- 地上2階, 地下1階建て
- 延床面積 2,005.00m²
- 開架の他A・B・C・D・E・Fの6つの書庫 (F書庫は別棟)

※近隣では松戸市(46年経過)に次ぐ年数

※開館時の人口は、現在の約半分

※平成30年度末、本館蔵書数は、全体の1/3に当たる32.5万冊 (開架12万冊, 書庫20.5万冊)



三億一千万円余をかけて市役所脇に建設された新しい図書館

長い間の念願であった新しい図書館ができ上がり、三月の開館を目指して、今その準備に追われています。
この図書館は、柏市の市制二十周年記念事業のひとつとして、市役所脇に今年の一月から三億一

千八百万円の費用をかけて建設してきたもので、地下一階、地上二階の白亜のしょうやかな荘い。延床面積は二千五平方メートル、その規模においては県下の公共図書館でも有数といわれ、地階に事務室、保存書庫、機械室など管理部門を、一階は成人・児童の貸出室、新聞・雑誌閲覧コーナーなど動的な部門を、二階には読書室、参考資料室、会議室など静的な部門を配備するとともに、従来中央公民館にあった視聴覚ライブラリーを移すほか、全国的にも珍しい「プラネタリウム」も設置されています。

従来、ともすると図書館は「難しい本が並び、特定の人の行くところ」というように考えられがちですが、実際は幼児からお年寄りまで全ての階層を対象として、読むことも借りることもでき、買物帰りや学校帰りに気楽に立ち寄るところ、と考えていただきたいと思えます。

今図書館では、こうしたことに十分配慮し、新しい建物にふさわしく市民要望にこたえられるよう、旧館を閉館して、図書の整理、索引の作成など、開館の準備を進めています。開館は、現在のところ三月二日(火)を見込んでいます。

六日から平常業務に

移動図書館車と豊四季台分館

なお、この開館準備のため、去年の十一月中旬からお休みしていた移動図書館車は、一月六日から平常通り運行されます。また、豊四季台分館も六日から開館されますので、ご利用下さい。

広報かしわ 昭和51年1月1日号

1階 施設概要



児童室－①



おはなし室－②



カウンター・新刊本棚－③



1階平面図



一般書本棚－④



ベビーベッド－⑤



OPAC(検索機)－⑥

【特記事項】

- 1階は一般書，児童書の開架スペースが大半を占める。
- 入口入ってすぐのところに貸出・返却カウンターがあり，この他，利用者登録や2階読書席の利用券などの受け渡しを行う。
- おはなし室では，毎週木曜日におはなし会が開催されている。

2階 施設概要



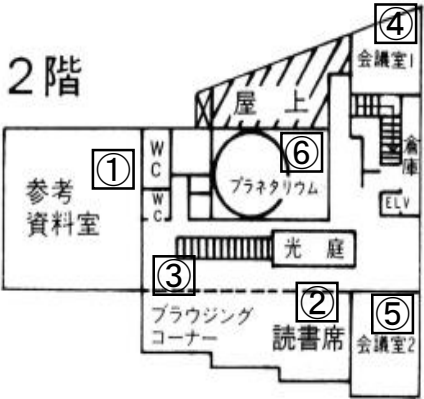
参考資料室－①



読書席－②



ブラウジングコーナー－③



2階平面図



第1会議室－④



第2会議室－⑤



プラネタリウム－⑥

【特記事項】

- 2階は読書席，参考資料室と2つの会議室，プラネタリウムがある。
- 外国語資料，全集，雑誌は2階に配架されている。
- 2つの会議室は内部の会議の他，読み聞かせボランティアの活動の場として提供している。
- 第2会議室については，予定がない場合，読書席として開放している。

地下1階 施設概要



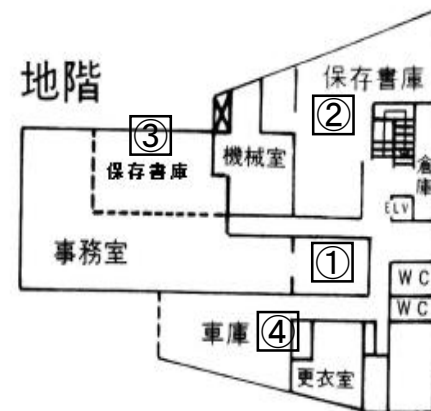
リクエスト本等仕分場ー①



A書庫ー②



B書庫ー③



地下1階平面図



リサイクル本(車庫)ー④



F書庫(外観)



F書庫(内部)

【特記事項】

- 地下は書庫と事務室となっている。
- 書庫について容量が限界に達しているため、除籍を進めている。
- F書庫は施設外

施設面での課題 その1

・市民活動や創造的活動のためのスペースがない。



ライブラリーカフェとは

「さばえライブラリーカフェ」は、新書のような手軽さで最先端のお話を聞き、おいしいコーヒーとスイーツを楽しみながら気軽に学びあおうという、市民の提案から始まったイベントです。2005年2月に第1回が開催され、現在まで継続しております。

- 最先端の話、専門家のお話を市民にわかり易くお話ししてもらう。
- テーマは偏らないよう様々な分野から。
- 毎月1回開催する。
- 講師のお話は60分。カフェタイムを15分。質疑応答を45分。
- 毎回の記録を取る。(参加者に前回カフェの記録をお配りします)

鯖江市立図書館『さばえライブラリーカフェ』
(https://www.city.sabae.fukui.jp/kosodate_kyoiku/bunkanoyakata/index.html)



あなたのアイデアがことば蔵で実現

ことば蔵では、1階交流フロアの活用を利用者の皆さんと一緒に考える「交流フロア運営会議」を開催しています。「こんなイベントをしたい!」といったアイデアや企画はこの運営会議を経て実現が可能です。誰でも気軽に参加できるオープンな会議です。毎月第1水曜日18時30分開催!

伊丹市立図書館ことば蔵『交流フロア運営会議』
(http://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/EDSHOGAI/EDLIB/kouryu_floor/index.html)

3Dプリンター、
UVプリンター、
レーザーカッター、
PC、展示棚 等

ものづくり
ラボ

ワークショップ用
テーブル・椅子、ベンチ
ミーティングブース
マイクロライブラリー
簡易キッチン 等

Co-learning
ゾーン

ひとりひとりが主体的・創造的に取り組んだ学びの成果をアウトプット
できるようなものづくりの道具を備えたり、多様な情報や人がつながり、
アイデアを形にしていくためのグループワークスペースを用意するなど、
開かれた学びの場である図書館における「新しい社会的価値を創造する
学びが集うモデル空間」を目指しています。

信州情報
探索ゾーン

六角形書架、
展示棚、
平置きタッチパネル
ディスプレイ、
信州白地図、黒板、
ホワイトボード
畳スペース 等

県立長野図書館『信州・学び創造ラボ』(http://www.library.pref.nagano.jp/labo_190406)

●みんなでつくる「公共」

ラボが「新たな社会的価値を創造する場」となるためには、行政が用意したハコとサービスを利用者が一方的に消費するという関係性ではなく、自立した市民が主体的に運営に関わり続けていくことが必要である。そこでラボにおいては、整備段階からオープンに至るまでに何度もワークショップを重ね、県内外から延べ300人を超える「これからの図書館や公共空間のあり方」に関心のある方々に参加いただきながら、空間デザインコンセプトや運営の方法等について意見を出し合ってきた。

県立長野図書館「信州・学び創造ラボ」の整備と現状(<http://current.ndl.go.jp/e2164>)

施設面での課題 その2

- 開架・閉架ともに書架スペースがない。

